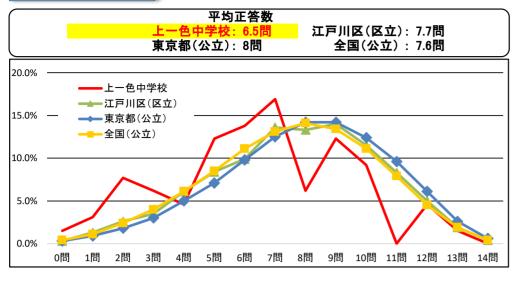
令和7年度全国学力。学習状況調查 結果分析表 【国語】上一色中学校

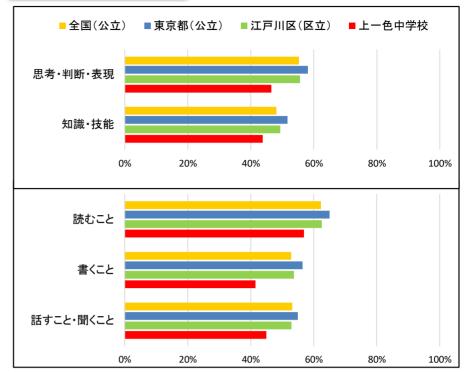
正答数分布



【平均正答率の差】

上一色中学校	46%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-11.0

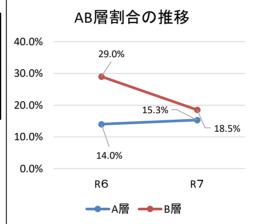
「領域別」の結果

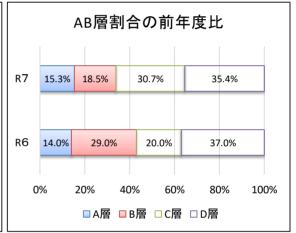


四分位における割合(都全体の四分位による)

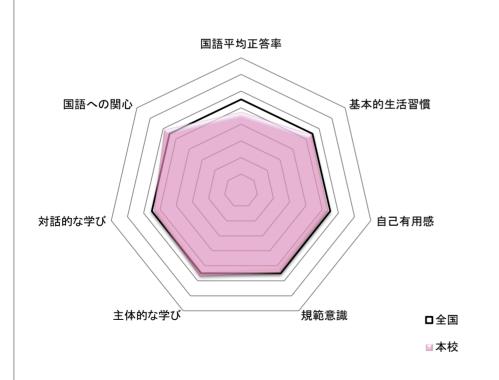
上位 ◆			──▶ 下位	
国語	A層	B層	C層	D層
	10~14問	8~9問	6~7問	0~5問
上一色中学校	15. 3%	18. 5%	30. 7%	35. 4%
江戸川区 (区立)	27. 1%	27. 2%	23. 5%	22. 2%
東京都(公立)	31. 2%	28. 4%	22. 3%	18. 1%
全国 (公立)	25. 8%	27. 5%	24. 2%	22. 5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、 全国の肯定的回答合計値を基準とした場 合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

国語への関心や主体的に学ぶ姿勢が高く、前向きな気持ちが個々や集団に感じられる。そのため、自己有用感や、健全な学校生活が送れているという観点から、規範 意識にも表れ、授業に落ち着いて取り組めている。

学習や授業への関心は高いが、平均正答率だけが低いという結果が出ている。家庭学習習慣や読書活動による、文章を読み取る力の育成、基礎・基本の確実な定着が課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

読書活動や探究的な活動、調べ学習等をとおして、国語を中心とした教科の授業と総合学習・特別活動との横断的な活動により、自己の意見や考えを発表する機会を多く設ける。その様子を学校だより・保護者会・三者面談等で発信し、現状の学力や学習状況の課題を説明する。学力の定着には家庭での協力が必要であり、よりよい学習方法について、家庭で話題にしていただき、家庭学習の習慣化を働きかける。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

令和6年度と比べて、AB層の割合が10%減少しているが、A層の割合は1.3%増加した。CD層が3分の2を占めるため、全体指導と、習熟度に応じた個別最適な課題を自ら選択して取り組める授業を展開している。

各単元に応じた発展課題を準備し、読解力や表現力、発表する力を伸ばし、本校の校内研修のテーマでもある、「一人一台タブレットを活用して、伝え合う力を高める」取組を、AB層に意識させている。国語の授業で培った表現力を活かし、弁論やビブリオバトル、討論での自分の意志を表現し、相手の意見を尊重することで、学習活動に主体性をもたせ、学力向上につなげている。

《学校の取組》

·教員の指導力向上

授業力向上研修とICTを効果的に活用した学力向上に向けた取組について研究し、年3回研究授業を実施する等、本校の課題と工夫・改善点について分析し、教科部会で各教科の課題を明確にしている。また、教員同士で授業を見合う、授業力向上月間を設け、学習指導要領や教育課程に則った授業を展開して、研修を重ねている。生徒授業評価アンケートで生徒が主体的・対話的に活動しているか、ICTを効果的に活用できているか、基礎学力の定着が達成できているか等を分析し、生徒の実態

に応じた学習指導と評価を実践している。 ・基礎学力の保障

・「よむYOMUワークシート」を朝読書、授業等で計画的に実施し、読書科の成果物作成と併せて、読書科の取組を充実させる。また探究的な学習の良さを理解させ、問題解決力の向上や発表する力の育成を実現する。

・漢字の小テストを毎回実施し、言葉に触れる機会や、文章を読み取る良さを実感させ、言葉の意味の理解や長文読解をとおして、読解力を向上させ、単元テストによる理解を積み重ねていく。また質問・補習教室を年4回実施し、よりよい学習方法やICT等を活用した効果的な方法を身につけ、定期考査達成率60%以上を、目指していく。

・学習習慣の確立

・家庭学習週間「江戸川っ子StudyWeek」と毎週行っている「よむYOMUDAY」によって、国語の学習活動に取り組む基本的な学習習慣を定着させている。朝や総合学習の時間で、読書の習慣化を図り、国語の授業で応用・発展的な活動を実践することで、授業と授業以外の取組両方で読解力が育成され、積極的に学習に取り組めるようにしている。普段の学習成果を弁論大会・読書科コンクールの取組や学校行事で成果として表し、発表することで自信をつけさせ、自身の学力向上における目標に応じた、家庭学習活動を実現させていく。

・AB層の育成

・規範意識が確立された、主体的に学習に取り組める授業が実現されており、その環境を活かして探究的な学習を見据えた授業展開への転換、長文読解、作文活動、自分の意見を表現する対話的な討論活動を増やしている。

・全国・区の学力調査や定期考査・到達度テストの結果から、自己の課題を分析させ、読むこと、話すこと・聞くこと、読むことの力をバランスよく育成できるよう、課題を提示する。本校の取組「よむYOMUDAY]の実施により、読むことの活動が定着しているため、国語的活動が身近なものとなり、学力向上を目指す集団が形成されている。